

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(国)141号		
事業毎の通番		14	市町村名	佐久穂町	箇所名(ふりがな)	畑(はた)	
事業概要	事業目的	本路線は佐久地域と山梨県を結ぶ唯一の幹線道路であり、標高1,000mを超える当該箇所周辺は日本有数の高原野菜の産地であるため、夏期を中心に大型車の通行量が多い。一方で、当地区は小中学校の統合により歩行者増が見込まれるが、歩道幅が1.0mで狭く危険であり、通学路となっている歩道を整備し、安全な歩行者空間の確保と交通事故の危険箇所の解消を図る。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	佐久穂小学校・中学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量: 14,772台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量: 73台・人/12h					
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	2年間	事業費(千円)		
	完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	国庫	その他	県債
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=340m W=2.5m			95,214	42,846		52,368
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量: 73台・人/12h ○目的地からの距離: 田口小学校L=1300m				評価	B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合: しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」 ○通学路の指定: 通学路安全プログラム(R3合同点検) 佐久穂小学校				評価	A
	効率性	○事業期間4年(R4~R5)				評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数: 人×自動車事故発生 1件 ○現況の歩道幅員: W=1.0m				評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有: 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み: 積極的な取組みがある ○地域の合意形成: 事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック: 同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、佐久穂町の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が狭小で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	B		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
	<p>位置図</p>	<p>平面図</p>	
事業周辺環境	【整備の必要性がわかる状況写真等】		
	<p>現状写真</p>	<p>標準横断面</p>	
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は佐久地域と山梨県を結ぶ唯一の幹線道路であり、標高1,000mを超える当該箇所周辺は日本有数の高原野菜の産地であるため、夏期を中心に大型車の通行量が多い。一方で、当地区は小中学校の統合により歩行者増が見込まれるが、歩道幅が1.0mで狭く危険である。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	佐久穂小学校の通学路となっていることから、PTAや学校関係者から通学児童の安全確保が求められている。	
	③ 事業説明等の経緯	平成27・28年度に地元説明会開催	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」	
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。		
⑦ その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 36° 8'48.0" 東経: E 138° 28'25.9"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)佐久小諸線	
事業毎の通番	15	市町村名	小諸市	箇所名(ふりがな)	小原(こはら)
事業目的	当路線は佐久市と小諸市を結ぶ幹線道路であり、交通量が非常に多い。しかし当区間は歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。近隣には、小・中学校があり通学路にも指定され、地域住民からの対策要望が高まっている。そこで、当事業で歩行者の安全確保および通過交通の円滑化の為に、歩道を設置することが急務である。				
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	小諸市通学路安全プログラム				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	小諸東小学校・小諸東中学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:10,139台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:20台・人/12h(自転車通学生徒)				
着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-	国庫	其他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=520m W=2.0m			450,000	247,500 202,500
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される			
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制			
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:20台・人/12h ○目的地までの距離:野岸小学校L=800m			評価 C
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:長野市通学路安全プログラム、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:通学路安全プログラム(H24合同点検) 小諸野岸小学校			評価 A
	効率性	○事業期間:5年間(R4~R8)			評価 A
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 2件(H28~R2) ○現況の歩道幅員:なし			評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:協力的である ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)			評価 A
所管課の意見	小学生の通学路であり、小諸市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要がある、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況 ○	総合評価 B
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手

位置図

事業箇所

東 中学校 野岸 小学校

状況写真

至 小諸市南地

平面図

標準横断面図

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、小諸市街と佐久市街地を結ぶ路線であり、交通量が非常に多い。当該箇所は、野岸小学校通学路であり、朝夕の歩行者・自転車が非常に多く、事故も度々発生しているため、自転車道及び歩道の整備を行うものである。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	H24 区長・住民代表・PTA、小諸市らが合わせて陳情
③事業説明等の経緯	H24 通学路合同点検実施 H25 関係区長に対して事業説明 H28 用地買収説明 買収着手
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 小諸市通学路安全プログラム
⑤地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦その他	特になし

事後・再評価からのフィードバック

子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 18' 47.00"
東経:E 138° 26' 33.00"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課


事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(国)143号	
事業毎の通番		16	市町村名	青木村	箇所名(ふりがな)	村松～当郷(むらまつ～とうごう)
事業概要	事業目的	一般国道143号は松本市から上田市に至る幹線道路であり、当該地域においては、これまで交通量が多い路線であったが、青木村内での工場誘致や宅地化などにより、通勤車両の増など交通の流れが変わると共に交通量も増加してきている。 また、青木小学校や青木中学校に通う児童の通学路に指定されているが、歩道が未整備であり危険な状況にあるため、早期の安全対策が望まれている。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律	
	関連する事業、計画等	上田市通学路安全プログラム、通学路合同点検(R3)、県重点施策(通学路点検要対策箇所)、青木村長期振興計画、上田地域広域幹線道路網構想・計画				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	青木小学校、青木中学校等への通学者、バス乗降者あり。自動車交通量:7,534台/日(H27センサス) 交通量171(149+22)人/12h(H27センサス)				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	2028年度(R10)	費用対効果	-	国庫	192,500	15,750
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=1,300m W=2.5m(片側)			350,000	192,500	15,750
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩行者の安全確保、特に通学児童の安全確保が期待される。				
	間接的効果(定量的・定性的)	第1次緊急輸送路、バス路線の整備 自転車歩行者と自動車との交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○現況自動車交通量:7,534台/日 ○現況自転車歩行者交通量:171人/12h(歩行者類149+自転車類22) ○目的地までの距離:450m(青木小学校)				評価 A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」上田地域広域幹線道路網構想・計画、青木村長期振興計画 ○通学路の指定:青木小学校				評価 A
	効率性	○事業期間:7年間(R4～R10)				評価 B
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 2件 ○現況の歩道幅員:歩道なし				評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:協力的である ○地域の合意形成:合意形成が図られている				評価 A
		○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:ルート検討の早い段階から地権者意向を調整していく				評価 A
所管課の意見	小学生の通学路であり、青木村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業者着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業者着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業者着手	

事業概要説明図表	位置図	横断面図		
	平面図	歩道設置工L=1300m W=2.5m		
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	一般国道143号は松本市から上田市に至る主要幹線道路であるとともに、災害時緊急輸送道路(1次)に指定されている。このうち当該箇所においては、大型車を含む交通量が多いものの、歩道の未整備区間が続き、歩行者やバス乗降者の安全確保が困難な状況となっている。 青木小学校や青木中学校への通学路としての利用もあるため、早期の対策が望まれている。		
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和元年9月に、村長や村議会議員、関係区長、PTA会長、交通安全協会等の連名で、建設事務所長に歩道整備の要望書の提出あり。		
	③ 事業説明等の経緯	・H25～R3 「当郷～浦野」工区(当該区間の上田市側)において歩道整備事業を実施。 ・R2.4 青木村長に事業者着手への意向を確認。 ・R3.12 地元への説明会を行い、合意形成を図られている。		
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	上田市通学路安全プログラム、通学路合同点検(R3)、県重要施策(通学路合同点検要対策箇所)に位置付けられている。 青木村長期振興計画において、歩道整備の推進が位置づけられている。		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。		
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。		
	⑦ その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 59' 9" 東経:E 137° 58' 54"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備事業		路河川名等	(一)下原大屋(停)線		
事業毎の通番	17	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	下郷~小井田(しもごう~こいだ)	
事業概要	事業目的	当路線は上田市真田地域としの鉄道大屋駅方面を結ぶ幹線道路であり、真田地域から丸子地域への通勤車両の交通量が多い。しかし、当区間では歩道が未整備であるため、歩行者の安全に支障をきたしている。近隣には、豊殿小学校があり、地域住民からの安全対策要望が高まっているため、歩道整備により交通の安全・円滑化を図りたい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	通学路合同点検(H25)				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	豊殿小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:8,882台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:19台・人/12h				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	4年間		
	完成年度(見込み)	2024年度(R6)	費用対効果	-	事業費(千円)	
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=990m W=2.5m	94,759	財源内訳(千円)		
				52,117	国庫	其他
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される			
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制 通学路の安全と安心の確保及び最短化			
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量 : 19台・人/12h ○目的地からの距離:豊殿小学校 L=400m	評価			
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:長野市通学路安全プログラム、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:豊殿小学校	評価			
	効率性	○事業期間4年(R4~R7)	評価			
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 人or自転車×自動車事故発生 3件以上 ○現況の歩道幅員:歩道無し	評価			
		○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映。地元の評価は高く、今後も歩道設置は必要と考え	評価			
計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:協力的である(地域住民や市町村から事業計画に対して要望あり) ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている	評価				
所管課の意見	小学生の通学路であり、上田市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。	採択状況	総合評価			
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。	○	A			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】			
	【整備の必要性がわかる状況写真等】			
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	小井田、下郷両工区とも、上田市豊殿小学校通学区域内の歩道未設置区間である。現在、県道に歩道が未設置であることから、隣接する農道等が通学路として指定されている。		
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に保育園・小学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。		
	③ 事業説明等の経緯	H28 事業説明会実施 R3 通学路合同点検時に経過や予定を説明実施		
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 上田市通学路安全プログラム		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。		
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。		
	⑦ その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 23' 30" 東経:E 138° 18' 21"	

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(国)406号	
事業毎の通番		18	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	菅平高原(すがだいらこうげん)
事業概要	事業目的	当路線は、上田市と須坂市を繋ぎ、且つ上信越自動車道と観光地である菅平高原を繋ぐ路線である。当区間は、近年駅伝合宿を行う大学や実業団数が増加している中、歩道未整備区間を走るランナーと車両のすれ違いが懸念されている。また一部区間は通学路に指定されており、通学者やランナーの通行にあたって危険な状況にあるため、早期対策が望まれている。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律	
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	菅平小中学校通学者、ランニングコース利用者等 自動車交通量:3,077台・人/12h(H27センサス)				
	着手年度	2022年度(令和4年度)	事業期間	5年間	事業費(千円) 財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	-	国庫	その他	県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=850m W=2.5m			375,000	206,250	151,875 16,875
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学者及びランナーの交通事故の減少が期待される。				
	間接的効果(定量的・定性的)	バス路線の整備、通行車両の交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量: 10人/12h ○目的地からの距離: 菅平小中学校 L=1,100m				評価 C
	重要性	○関連計画、重点施策との整合: しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」 ○通学路の指定: 通学路安全プログラム(R3合同点検) 菅平小中学校				評価 A
	効率性	○事業期間5年(R4~R8)				評価 A
	緊急性	○近年の交通事故件数: 人or自転車×自動車事故発生 1件以上 ○現況の歩道幅員: 歩道無し				評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有: 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み: 積極的な取組みがある ○地域の合意形成: 合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック: 同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				評価 A
所管課の意見	小学生の通学路であり、上田市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	B	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
		
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	
		
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は上田市と須坂市を繋ぎ、且つ上信越自動車道と観光地である菅平高原を繋ぐ路線となっている。当該区間は歩道未整備であり、一般交通を阻害しています。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	近隣に小中学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。	
③ 事業説明等の経緯	R3.7.4 地元・地権者説明会を実施。	
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」 上田市通学路安全プログラム	
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯: N 36° 31'43.2" 東経: E 138° 19'56.1"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)小諸上田線			
事業毎の通番		19	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	梅ヶ丘(うめがおか)		
事業概要	事業目的	本路線は小諸市と上田市を結ぶ千曲川右岸の幹線道路ですが、通勤などにも利用される主要地方道で、区間の一部は上田市神科小学校の通学路になっています。 当該区間は河岸段丘地形のため、千曲川の支川である神川上流に迂回する道路線形であり、急カーブや急勾配であるが歩道が未整備で危険なことから、歩道の整備により通学児童や高齢者などの安全な歩行空間を確保したい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	神科小学校への通学児童ほか 現況自動車交通量:10,278台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:79台・人/12h						
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	3年間	事業費(千円)			
	完成年度(見込み)	2024年度(R6)	費用対効果	-	国庫	其他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=570m W=2.5m			106,800	58,740	43,254	4,806
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制、バス路線の整備					
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:79台・人/12h ○目的地からの距離:神科小学校L=2,100m					評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:通学路安全プログラム(R3合同点検) 神科小学校					評価	A
効率性		○事業期間3年(R4~R6)					評価	A
緊急性		○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 3件以上 ○現況の歩道幅員:歩道無し					評価	A
計画熟度		○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)					評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、上田市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	○	総合評価	A
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。							
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
	位置図	
	平面図	
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	
	現状写真	
	標準横断面	
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は小諸市と上田市を結ぶ千曲川右岸の幹線道路ですが、通勤などにも利用される主要地方道で、区間の一部は上田市神科小学校の通学路になっています。当該区間は、歩道未整備であり、一般交通を阻害しています。
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に小学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。
	③ 事業説明等の経緯	神川左岸から本事業区間までの間は、既に事業が進行している。このため本事業区間も早期の事業化が求められている。 令和3年4月28日 地元及び地権者説明会を実施
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 上田市通学路安全プログラム
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 11'43.6" 東経:E 138° 29'29.0"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(-)茅野(停)八ヶ峰公園線		
事業毎の通番		20	市町村名	茅野市	箇所名(ふりがな)	埴原田(はいばらだ)	
事業概要	事業目的	当路線は諏訪IC及び茅野市街地と八ヶ岳公園等をつなぐ観光及び生活、産業道路であり、交通量が多い路線である。当該箇所周辺は、工場、ショッピングセンターが立地し、アパートの新規立地など住宅整備も行われている。しかし、当該区間には歩道がなく、学校、工場、商店や地区公民館等の公共施設へ向かう歩行者は、集落内の市道への迂回を余儀なくされている。よって、沿線住民の安全を図るため緊急に整備が必要な箇所である。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン、茅野市民プラン(第4次茅野市総合計画) 茅野市通学路安全プログラム					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	米沢小学校、永明中学校、諏訪東京理科大学 通学者 他 現況自動車交通量: 14,152台/日、現況交通量(歩行者・自転車)48台・人/12h					
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	国庫	その他	県債	
全体事業内容(主な工種)	歩道工 L=160m W=2.5m			150,000	82,500	67,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
	間接的効果(定量的・定性的)	緊急輸送路(市)、バス路線の整備 通行車両の交通事故抑制 観光客の増加					
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量: 611台・人/12h ○目的地からの距離: 永明小学校2,300m				評価	B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合: しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定: 通学路安全プログラム(R3合同点検) 永明小学校				評価	A
	効率性	○事業期間2年(R4~R5)				評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数: 「自転車×自動車事故発生 1件」 ○現況の歩道幅員: 歩道無し				評価	A
		○事業情報の共有: 市のHPで周知 ○地域の取り組み: 学校、PTA等より要望 ○地域の合意形成: 通学路合同点検により対策方法等について合意形成が図られている。 ○事後・再評価からのフィードバック: 同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				評価	A
	所管課の意見	小学生の通学路であり、茅野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	位置図		
	写真		
事業周辺環境	平面図		
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は諏訪IC及び茅野市街地と八ヶ岳公園等をつなぐ観光及び生活、産業道路であり、起点側及び終点側は歩道設置済みである。人家、工場が近接し、歩道中抜け区間となっている本区間について、地元から歩道設置の要望があった。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本路線は、観光道路、生活道路であり、交通量が多い。また、沿線には工場、商店等が多く、車の出入りが多いことから、地元区から歩行者の安全確保のため歩道設置の要望が出された。	
	③ 事業説明等の経緯	H29.11月、H30.5月 区役員へ説明。 H29.9月 沿線住民へ説明。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	(-)茅野(停)八ヶ峰公園線は茅野市都市計画区域マスタープランの幹線道路に位置づけられている。また、市防災マップでは緊急輸送路となっている。 また、茅野市都市計画マスタープランでは、歩行者の安全に配慮した行動軸としての機能強化が求められており、茅野市通学路プログラムに指定されている。	
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
⑦ その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。		事業代表地点の緯度経度 北緯: N 36° 00' 19.30" 東経: E 138° 10' 29.70"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備		路河川名等	(国)153号				
事業毎の通番		21	市町村名	辰野町	箇所名(ふりがな)	宮所(みやどころ)			
事業概要	事業目的	本路線は伊那谷を縦断する主要幹線道路かつ一次緊急輸送路である。当該箇所は交通量が多く、大型車の通行も多いものの、既設歩道幅が狭小であり、歩道の無い区間もある。特に当該区間は通学路にもなっており、児童の通行にあたって危険な状況にあるため、早期対策が望まれている。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律				
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 辰野町通学路安全プログラム							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	辰野西小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:10,648台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:23台・人/12h(H27センサス)							
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-	国庫	其他	県債	一般財源	
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=350m W=2.5m			650,000	35,750		614,250	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される						
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制						
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:23台・人/12h ○目的地からの距離:辰野西小学校L=1500m					評価	C
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:通学路安全プログラム(H27合同点検) 辰野西小学校					評価	A	
効率性		○事業期間5年(R4~R8)					評価	A	
緊急性		○近年の交通事故件数: 自転車×自動車事故発生 1件(住民聞き取り)					評価	A	
		○現況の歩道幅員:歩道無し							
計画熟度		○事業情報の共有:関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)					評価	A	
所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価	B		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○				
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手				

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
	位置図	平面図
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	
	現状写真	標準横断面
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は伊那谷を縦断する主要幹線道路かつ一次緊急輸送路である。当該箇所は交通量が多く、大型車の通行も多いものの、既設歩道幅が狭小であり、歩道の無い区間もある。特に当該区間は通学路にもなっており、児童の通行にあたって危険な状況にあるため、早期対策が望まれている。
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に小学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。
	③ 事業説明等の経緯	H31に宮所対策委員会、地域住民への説明会を実施、以降毎年委員会への説明を行っている。地域住民及び沿線の事業用地の地権者から事業への理解を得ており、計画熟度は高い。
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 信州みちビジョン「施策I-(3)」 辰野町通学路安全プログラム
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 35° 59'09.2" 東経:E 137° 58'53.4"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課


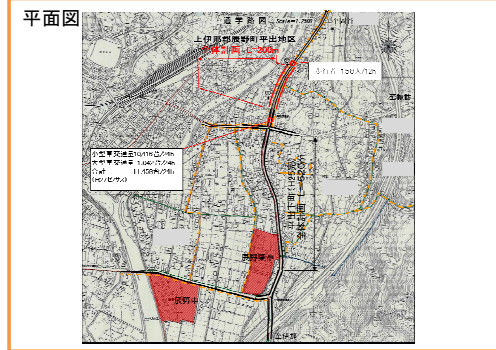

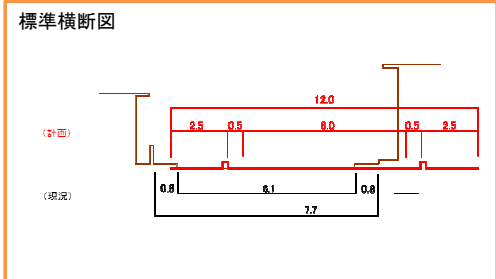
事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(主)伊那辰野(停)線		
事業毎の通番	22	市町村名	辰野町	箇所名(ふりがな)	樋口矢の坂(ひぐちやのさか)	
事業概要	事業目的	本路線は主要地方道伊那辰野停車場線の歩道中抜け区間であり、交通量も多く歩行者にとって危険箇所である。辰野東小学校及び辰野中学校の通学路に指定されており、辰野町交通安全プログラム箇所でもあることから、歩道設置を行い、児童の通学時の安全な歩行空間を確保したい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 辰野町通学路安全プログラム				
	保安対象・範囲 受益対象・範囲	辰野東小学校、辰野中学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量：15,129台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量：32台・人/12h(H27センサス)				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	3年間	事業費(千円) 財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2024年度(R6)	費用対効果	-	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=450m W=2.5m		70,000	38,500	31,500
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される			
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制			
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：32台・人/12h ○目的地からの距離：辰野東小学校L=1500m			評価 C
重要性		○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定：通学路安全プログラム(H24合同点検) 辰野東小学校			評価 A	
効率性		○事業期間3年(R4~R6)			評価 A	
緊急性		○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 0件 ○現況の歩道幅員：歩道無し			評価 B	
計画熟度		○事業情報の共有：関係者以外にも周知(東用地買収済) ○地域の取り組み：積極的な取組みがある ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている			評価 A	
		○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				
所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況 ○	総合評価 B	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
	位置図	平面図
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	
	現状写真	標準横断面
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は主要地方道伊那辰野停車場線の歩道中抜け区間であり、交通量も多く歩行者にとって危険箇所である。辰野東小学校及び辰野中学校の通学路に指定されており、辰野町交通安全プログラム箇所でもあることから、歩道設置を行い、児童の通学時の安全な歩行空間を確保したい。
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に小、中学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。
	③ 事業説明等の経緯	H31に矢の坂歩道建設委員会、地域住民・沿線事業用地の地権者への説明を行っている。沿線の事業用地(東側)は既に取得を終えている。
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 信州みちビジョン「施策I-(3)」 辰野町通学路安全プログラム
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 35° 57'44.8" 東経:E 137° 59'51.1"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備		路河川名等	(主)下諏訪辰野線			
事業毎の通番		23	市町村名	辰野町	箇所名(ふりがな)	平出上町(ひらいでかんまち)		
事業概要	事業目的	<p>本路線は伊那地域と諏訪地域を結ぶ主要な幹線である。約10,000台/12hの交通量があり、物流として利用され、また地域の生活道路として利用されている。</p> <p>しかし、当該箇所は両側に人家が連担し、歩道が両側に設置されているが、W=0.8mと狭小である。このため通学児童、生徒や歩行者が非常に危険な状況となっている。特に雨天時には、通過車両に接触する恐れがあり危険な状況となっている。また車道幅員が狭小なため、通過車両が歩行者を意識し、センターラインを越えて通過する状況がみられる。</p> <p>このため、歩道整備を含む安全な歩行空間を確保したい。</p>						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 辰野町通学路交通安全プログラム						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	辰野東小学校、辰野中学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量：11,458台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量：158台・人/日						
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	2年間	事業費(千円)			
	完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=200m W=2.5m			153,000	84,150		68,850
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される 交差点の改良による歩行者横断時の事故減少が期待される					
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制 線形改良、一部車道幅員による交差点道からの視距確保					
	評価の視点	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ○現況自転車歩行者交通量：歩行者158人/日(H23.10.4交通量調査実施) ○目的地からの距離：辰野東小学校L=600m、辰野中学校L=1200m 				評価	A
重要性		<ul style="list-style-type: none"> ○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定：通学路安全プログラム(H27) 辰野東小学校、辰野中学校 				評価	A	
効率性		○事業期間2年(R4~R5)				評価	A	
緊急性		<ul style="list-style-type: none"> ○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 1件 ○現況の歩道幅員：歩道幅員0.8m 				評価	B	
計画熟度		<ul style="list-style-type: none"> ○事業情報の共有：関係者以外にも周知(用地買収完了、一部工事実施済み) ○地域の取り組み：地元上町交通対策委員会が事業に関する広報を行うなど積極的な取り組みがある 改良促進期成同盟会による交通量調査の実施 ○地域の合意形成：事業目的と対策方法等について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1) 				評価	A	
所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	○	総合評価	A	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。							
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>位置図</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>平面図</p>  </div> </div>	
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>現状写真</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>標準横断面</p>  </div> </div>	
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は諏訪地域と伊那地域を結ぶ幹線道路であり、一日1万台以上の交通量があり、迂回路がないことから地域の生活道路としても利用されている。当路線は辰野東小学校の通学路、辰野中学校に指定されているが、大型車の混入に伴い通学時の児童の安全が脅かされている。隣接工区である平出工区はH25に歩道整備が完了しており、歩道の不連続が生じている。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	整備促進期成同盟会、上町交通対策委員会より歩道整備に要望が出されている。付近に小、中学校があることから、歩行者の安全確保が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。	
	③ 事業説明等の経緯	隣接工区である平出工区はH25に事業が完了している。H25に上町交通対策委員会、地域住民への説明会を実施、以降毎年委員会への説明を行っている。沿線の事業用地は、既に取得を終えている。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 信州みちビジョン「施策I-(3)」 辰野町通学路安全プログラム	
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
	⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 59'01.6" 東経:E 138° 00'07.0"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(国)361号		
事業毎の通番		24	市町村名	木曾町	箇所名(ふりがな)	開田末川(かいだすえかわ)	
事業概要	事業目的	幹線道路である(国)361号の沿線にある開田高原は、標高1,100m~1,300mの高地に位置し、木曾のシンボル「御嶽山」がどこからも眺められる高原と木曾馬の産地で知られ、年間を通して多くの観光客が訪れる。夏は避暑地としてハイキングなど、冬はスキーで観光客が賑わうなか、西野地区から中沢地区には歩道がないため歩行者の通行に支障をきたしている。また、西野地区には開田中学校があり、中沢、藤屋洞地区の学童はこの路線を通学するため、安全確保のため歩道を設置したい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	木曾町通学路交通安全プログラム					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	現況自動車交通量:2,657台/日、現況自転車歩行者交通量:64台・人/12h(H27センサス) 開田小学校への通学児童、開田中学校への通学生徒					
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	国庫	その他	県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=270m W=2.5m			143,700	79,035	64,665
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	通学児童・通学生徒を含めた歩行者の安全確保、歩行者の交通事故減少が期待される				
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:64台・人/12h ○目的地からの距離:開田小学校まで2,100m				評価
重要性			○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:R3通学緊急合同点検対策箇所、木曾町通学路交通安全プログラム				評価
		効率性	○事業期間2年(R4~R5)				評価
緊急性			○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 0件 ○現況の歩道幅員:歩道無し				評価
		計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				評価
所管課の意見			小学生の通学路であり、木曾町の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
	位置図		
	平面図		
	【整備の必要性がわかる状況写真等】		
	現状写真		
	標準横断面		
	事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	幹線道路である(国)361号の沿線にある開田高原は、標高1,100m~1,300mの高地に位置し、木曾のシンボル「御嶽山」がどこからも眺められる高原と木曾馬の産地で知られ、年間を通して多くの観光客が訪れる。西野地区から中沢地区には歩道がないため歩行者の通行に支障をきたしている。
		② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	小学校および中学校の通学路となっており、通学生徒・児童を含めた歩行者の保護が求められている。そのため、歩行者の安全な歩行空間の確保が要望されている。
		③ 事業説明等の経緯	H22,H23,H27年度に地元説明会を実施している。
		④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 木曾町通学路安全プログラム
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮		当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮		歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
⑦ その他		特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 35° 56' 3.9" 東経:E 137° 37' 12.8"	

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(一)南木曽(停)線	
事業毎の通番		25	市町村名	南木曽町	箇所名(ふりがな)	大沢田橋(おおさわだばし)
事業概要	事業目的	(一)南木曽(停)線は木曽郡南木曽町において、JR南木曽駅を起点として国道19号に至る生活道路であり、南木曽町立南木曽小学校の通学路としても利用されています。このうち、大沢田橋の周辺は、路肩を含めた幅員がわずか5.0mと狭く、車両の通行と児童の通行が重なった場合は、非常に危険度が高い状況です。このため、登下校時の児童の安全を確保する目的から、一部歩道橋整備を含めた歩道整備事業を実施しています。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律	
	関連する事業、計画等	南木曽町通学路交通安全プログラム				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	現況自動車交通量:745台/日(H27センサス) 南木曽小学校への通学児童				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	国庫	62,700	一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=85.0m W=2.0m			114,000	62,700	51,300
	上部工 橋長L=16.1m 下部工 N=2基					
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	通学児童・通学生徒を含めた歩行者の安全確保、歩行者の交通事故減少が期待される				
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:未計測 ○目的地からの距離:南木曽小学校まで200m				評価 B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:R3通学緊急合同点検対策箇所、南木曽町通学路交通安全プログラム				評価 A
	効率性	○事業期間2年(R4~R5)				評価 A
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 0件 ○現況の歩道幅員:歩道無し				評価 B
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				評価 A
所管課の意見	小学生の通学路であり、南木曽町の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	B	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

位置図

標準断面図(歩道橋)

標準横断面図(歩道)

写真

平面図

事業概要説明図表

H27
自動車交通量 745台/12h
歩行者交通量 299人/12h
自転車交通量 41台/12h

全体計画(R4~R5)
L=85.0m W=2.0m 上部工
橋長L=16.1m 下部工 N=2基
R4 下部工N=2基

事業周辺環境

- 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景
(一)南木曽(停)線は木曽郡南木曽町において、JR南木曽駅を起点として国道19号に至る生活道路であり、南木曽町立南木曽小学校の通学路としても利用されています。このうち、大沢田橋の周辺は、路肩を含めた幅員がわずか5.0mと狭く、車両の通行と児童の通行が重なった場合は、非常に危険度が高い状況です。
- 地域からの要望経緯及び地域の関わり
小学校の通学路となっており、通学生徒・児童を含めた歩行者の保護が求められている。そのため、歩行者の安全な歩行空間の確保が要望されている。
- 事業説明等の経緯
平成25年10月に南木曽町役場にて当初事業計画の説明会を実施している。
- 他事業・プロジェクトとの整合、関連
しあわせ信州創造プラン2.0 4-4
信州みちビジョン「施策I-(3)」
南木曽町通学路安全プログラム
- 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮
当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
- 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮
歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
- その他
特になし

事後・再評価からのフィードバック

子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 35° 36' 15.4"
東経:E 137° 36' 36.4"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(一)松本空港線	
事業毎の通番	26	市町村名	松本市	箇所名(ふりがな)	町神(まちかん)
事業目的	当路線は信州まつもとと空港から松本市中心街地を結ぶアクセス道路であるうえ、沿道には住宅地があり、物流および生活の重要道路として交通量が多い。また、周辺には小学校、中学校があり、児童、生徒の通学、活動エリアともなっているが、一部に幅員の狭い歩道があるのみで、歩行者の安全確保が急務となっている。当事業により歩道整備することで、通学をはじめとする歩行者の安全な通行空間を確保する。				
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律	
関連する事業、計画等	松本市通学路交通安全プログラム 松本空港周辺環境計画				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	菅野小学校、菅野中学校、菅野児童センター通学者 他 現況自動車交通量:9,069台/日(H27センサス)、菅野小学校児童数:591名(R3)、菅野中学校生徒数:464名(R3)				
着手年度	2022年度(R4)	事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	2028年度(R10)	費用対効果	-	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=1620m W=2.5m			900,000	495,000 405,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される			
	間接的効果(定量的・定性的)	緊急輸送路、バス路線の整備 通行車両の交通事故抑制 信州まつもとと空港の発展・国際化に向けた周辺整備			
評価の視点	必要性	○現況自動車交通量:7,085台/12h(9,069台/日) ○菅野小学校児童数:591名(R3)、菅野中学校生徒数:464名(うち自転車通学200名)(R3) ○目的地までの距離:菅野小学校L=300m			評価 A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:通学路安全プログラム(R3合同点検) 菅野小学校 ○松本空港周辺環境整備計画			評価 A
	効率性	○事業期間7年(R4~R10)			評価 B
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 3件以上 ○現況の歩道幅員:歩道無し			評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:協力的である ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)			評価 A
所管課の意見	小学生の通学路であり、松本市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況 ○	総合評価 A
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手

事業概要説明図表	位置図	写真		
	標準横断面図	平面図		
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景			当路線は松本市街地と信州まつもとと空港を結ぶアクセス道路であるが、空港開港以降、沿道の宅地化が進み、重要な生活道路の役割も担っている。周辺には菅野小学校、菅野中学校があり、児童、生徒の通学路のほか、活動エリアともなっているが、歩道が整備されておらず、歩行者、自転車が危険に晒されており、PTAや地元から通学路点検等を通じ対策要望の声がある。
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり			付近に小、中学校、児童センターがあることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。
	③ 事業説明等の経緯			平成31年2月～令和元年9月 役員説明 令和元年11月 地元説明会 令和2年2月 地元説明会
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連			しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 松本市通学路交通安全プログラム 松本空港周辺環境計画
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮			当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮			歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
⑦ その他			特になし	
事後・再評価からのフィードバック		子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 10'17.33" 東経:E 137° 55'53.96"	